

「淡河分校の今後のあり方について」

淡河分校の運営については、日ごろ地元淡河分校振興委員会（淡河町自治協議会）をはじめ育友会、同窓会地元各位のご協力ご援助をいただき今日に至りました。

ところが附近の急速な地域開発の進展に伴って、北神地域三木市附近の人口が急増し周辺地域に高等学校の新設や学級増の要望が高まってまいりました。

学校~~も~~でも事態に対処するため吉川分校の増築を機会に三分校の統合についていろいろ協議されましたが、その結論を見るにいたりませんでした。

その後//月/日には、阪神地区新設高校の人事発表があり引続いて//月/6日には淡河分校に近い神戸地区新設高校の人事発表が行なわれるなど新設高校の設置が具体化してまいりました。

その上吉川分校の学級増と独立の陳情や小野工高三木分校の全日制移行の強い動きもあり、いよいよ淡河分校としても今後の「あり方」を慎重に考えなければならない時点にたち至りました。

学校当局としても神戸地区に新設される高等学校の影響を考慮し

- 1 淡河分校は新設高校と同じ北神地区内であり学区も行政区画も同じである。
- 2 淡河分校の卒業生の多くは新設校の校区内に居住している。これらの諸点から今後の住民感情や卒業生の気持ちを充分考慮してこの機会に淡河分校も新設高校も共に同じ地区内で発展する方法として新設高校と淡河分校の統合について考えることが地域の教育上もまた、住民感情からも最善の策ではないかと考

えられるようになりました。

そこで、新設高校と淡河分校を統合して共に発展するよう
県教育委員会に要請してはということになりその内容として
1 淡河分校在校生は 新設高校に編入し淡河校舎で教育する。

2 新1年生は新設高校の校舎で教育する。

以上を骨子として、地元の意見を聞いてみてはどうかということになり、その後協議が重ねられましたが、容易に結論が得られなかった。

その後 学校代表も加わり淡河分校の今後の^(真の)あり方はいかにあるべきかという原点に立ちもどって さらに細部にわたって検討し 県教育委員会とも再三協議を重ねた結果下記のとおり確約を得ました。

1 淡河分校在校生は 新設高校に編入し 淡河校舎で教育する。

2 新1年生の募集は 次のとおりとする。

新設高校普通科6学級

ただし募集要項では新設高校普通科6学級うち淡河校舎1学級とする。

3 淡河校舎在校生の卒業後は ただちに空白を置かず地域の発展のための施設（社会教育施設、福祉施設等のうち地元の要望する施設）として活用する。

上記の経過をたどり今日に至りました、これは、今後淡河町住民の子弟の教育のためにも また、淡河町住民の社会教育活動のためにも一層の発展に~~な~~ながら さらに淡河分校の設立維持に努力された先輩諸氏のご精神にもこたえることになるものと確信いたします。

ついては、地元各位、卒業生諸氏の、深いご理解とご協賛をいただき淡河町教育一層の発展にご協力をたまわりますようお願いし

ます。

昭和48年 / 月 / 3日

各位 殿

兵庫県立有馬高等学校淡河分校
振興委員会

10名

会長 金子文

- ① 張松林氏
- ② 通学バス
- ③ 坂元会の協賛、
＜ 親友会 ＞ の協力、
同窓会
- ④ 佐藤忠司氏
協力にお願い。

懇話会費 85名

親友会

- 佐藤忠司氏 懇話会にて 出席する。
- 家政科、＜ 加瀬学生会 ＞

9日校

- ① 淡河分校 新設校(定)1学級として別して行ふ
- ② 養正122112 有馬高等121学級募集して新設校に合併する
- ③ 淡河高等女校 校名12改ふ
- ④ 淡河校舎給付に直して地域の住民に利用して2施設
12211211。

普通科 270名 (内 淡河分校(淡河校舎) 1学級)